

教育実習を通じた学生の成長

－ 1年次と2年次の実習報告における比較分析－

塚田 右子

How Students Improved through Teaching Practices
: Comparative Analyses
of the First- and Second-Year Teaching Practice Reports

TSUKADA, Yuko

キーワード : 幼稚園実習、 実習報告、 実習事前指導

1 はじめに

本校では1年生の11月から2週間「教育実習Ⅰ」が始まり、2月の「保育実習Ⅰ」（保育園または施設）、2年生の6月の「教育実習Ⅱ」、そして7月の「保育実習Ⅰ」（2月に保育実習をした学生は施設実習、施設実習をした学生は保育実習）、8月に「保育実習Ⅱ・Ⅲ」とあわせて5回の実習を行う。

実習後の実習報告については、今までにも本校職員によってまとめられ、実習の実態把握に役立てるとともに、事前・事後指導に反映させてきた。倉科(2009)では、園で実際に歌われている曲の15年間の推移がまとめられ、守ら(2011)では、実習終了後の学生による自己評価が、実習を重ねるにつれて伸びていく傾向がある事が明らかにされた。また、森(2013)においては、1年次11月の実習報告を分析することにより、入学後1度目の実習の実態が明確にされた。

塚田は本年度から「保育実習指導」「保育実習Ⅰ指導」の教科担当をしている。実習全般の指導を行う立場として学生への事前、事後指導のあり方を模索している。

森(2013)も述べていたように1年生にとっての初めての实習である「教育実習Ⅰ」に対する不安は大変大きいものがある。しかしながら同様に2年生の「教育実習Ⅱ」もそれとは別の不安を抱えて実習に臨むと思われる。なぜならば、2年次の実習で要求される内容は1年次と比べ質・量ともにはるかに上回ると予想されるからである。

1年次の実習の前には、2年生から教育実習の予備知識を取得できるが、2年次の教育実習では、主として実習先の事前打ち合わせからおおまかな実習内容を把握することとなる。

2年生が予備知識の入手先がないことから不安になるという問題を解消し、全体の見通しを持てるようにするためには、2年次の実習の実態を明らかにすることが重要であり、また2年次の実習実態が明らかになることにより、我々指導者も事前指導のあり方を模索できると考えられる。

2 目的

森（2013）が教育実習Ⅰにおいて行ったものと同じの調査を、教育実習Ⅱの終了後に実施することにより、両実習の実態及び、内容の差異を明確にすることを目的とする。

3 方法

実習後、調査用紙を配布し一斉に回答させた。

- 1) 調査対象者 本校保育科平成 25 年度入学生 23 名
- 2) 調査対象実習 教育実習Ⅰ 平成 25 年 11 月
 教育実習Ⅱ 平成 26 年 6 月

調査用紙

次回の実習に活かすために（資料 1）、実習報告書（資料 2）、実習を終えて（資料 3）

4 結果

回収した調査用紙を基に、項目ごとの集計を行い、1年次、2年次を比較した。それを以下に示すこととする。

11月の1年生の教育実習後の分析をしたところ、実習内容等については森（2013）の分析と大筋同じ様な結果が確認できた。

まず図 1、図 2 に担当したクラスを示す。図 1 では 10 日間同じクラスを担当した学生数を、図 2 は 10 日間の実習期間中 6 日以上同じクラスで担当した学生数を示す。1年次は幼稚園の各年齢の子どもの姿を学ぶ観察実習の観点からか、8割の学生が各年齢クラスに入っている。反対に2年生になると6割の園で10日間同じクラスの担当であった。

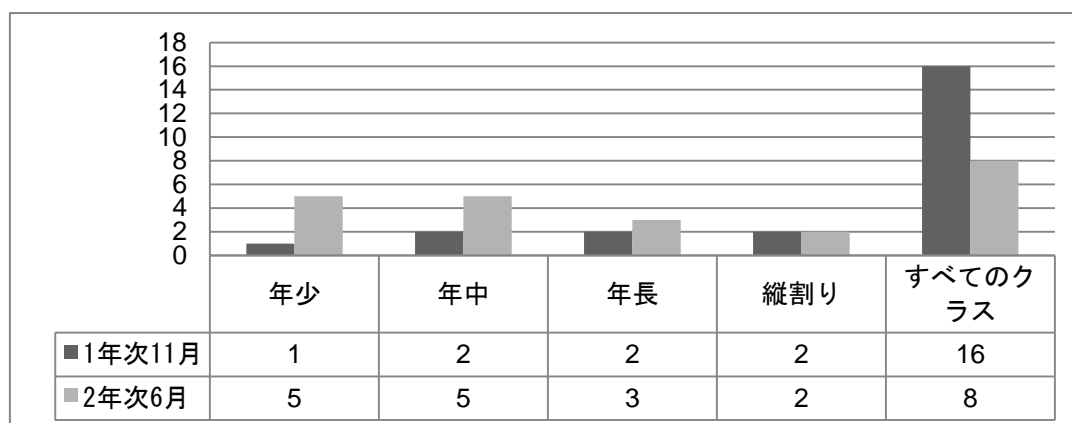


図 1 実習中の担当クラス（10日間同じクラス）

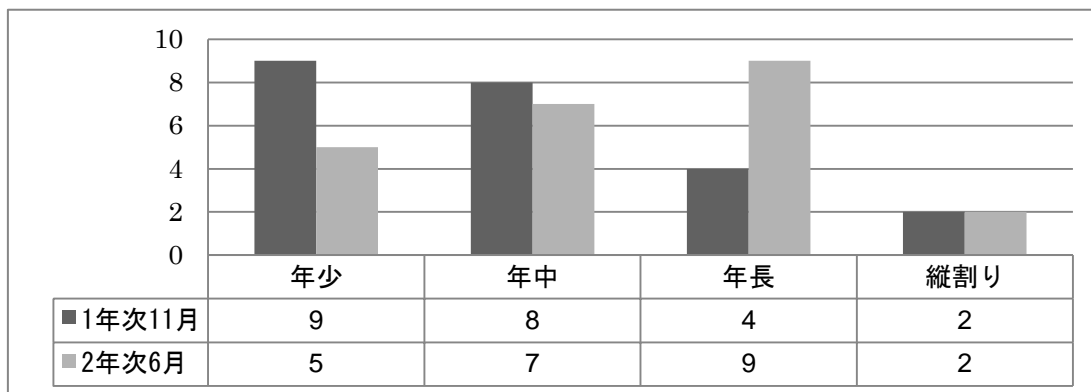


図2 主に担当したクラス（6日間以上同じクラス）

次に、担当したクラスでの部分活動の回数及び実習内容について示す。

図3に朝の活動、図5に昼の活動、図7に帰りの活動の回数を、図4、図6、図8ではそれぞれの部分実習の活動内容を示した。部分実習の中には0回の表示もあるが、その学生も2週間の中で朝、昼、帰り何らかの活動をした。2年次になると全員、朝、昼、帰りそれぞれの部分実習を必ず行い、半日実習及び全日実習にむけての実習をしている。

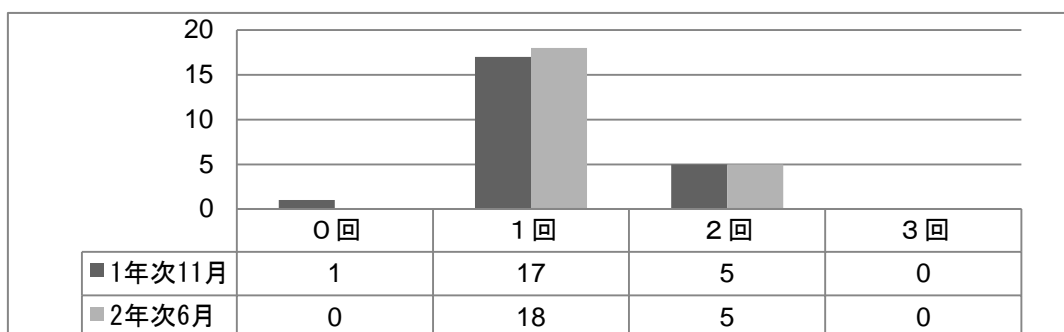


図3 朝の活動回数

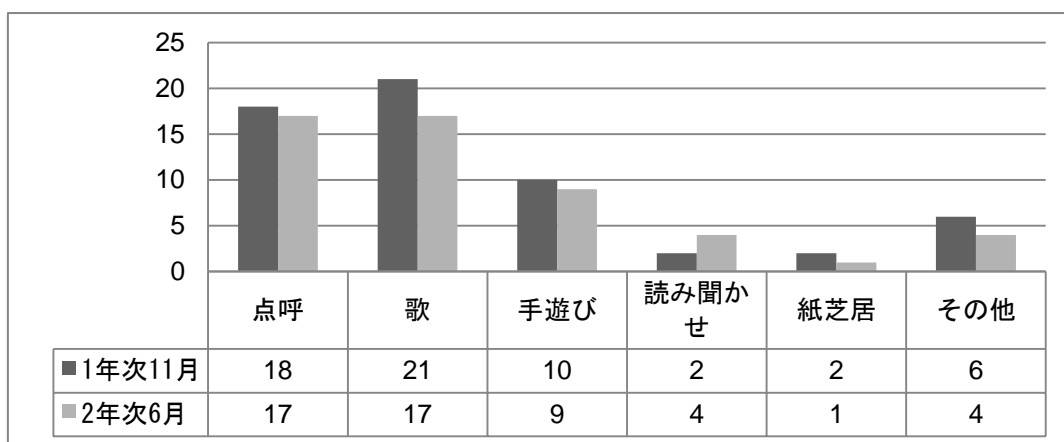


図4 朝の活動内容

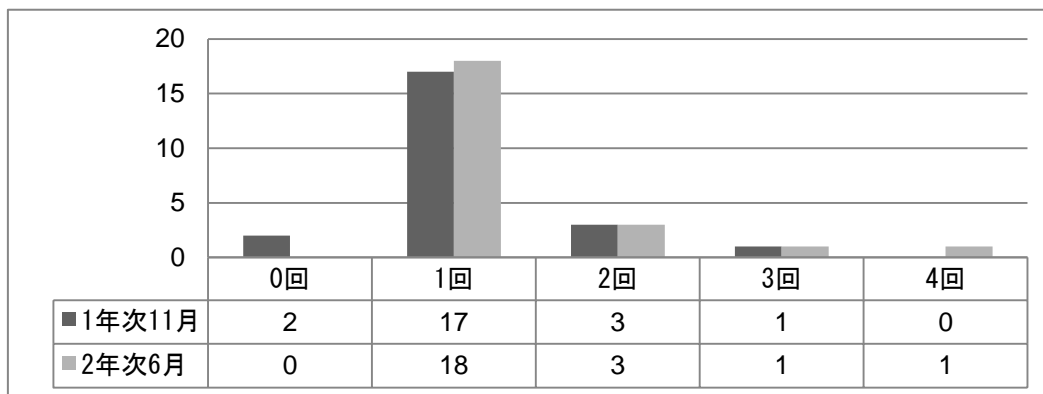


図5 昼の活動回数

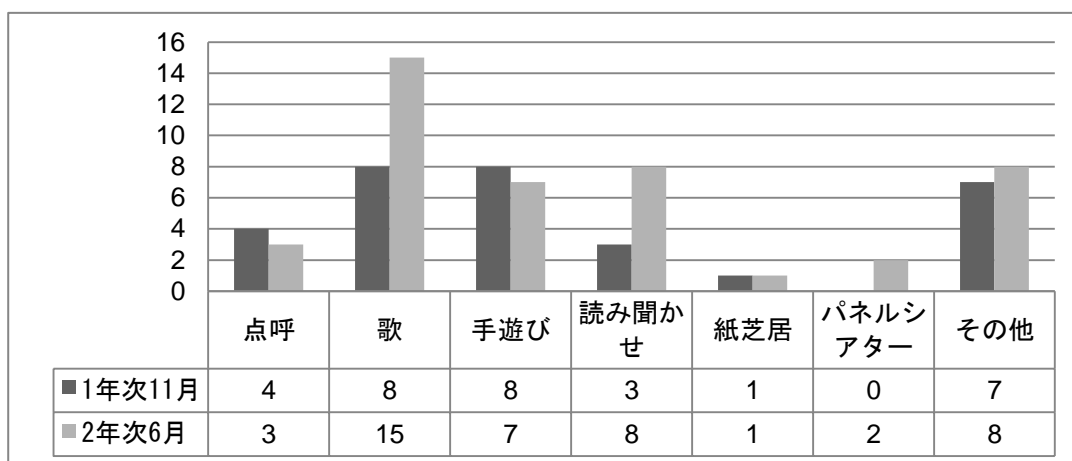


図6 昼の活動内容

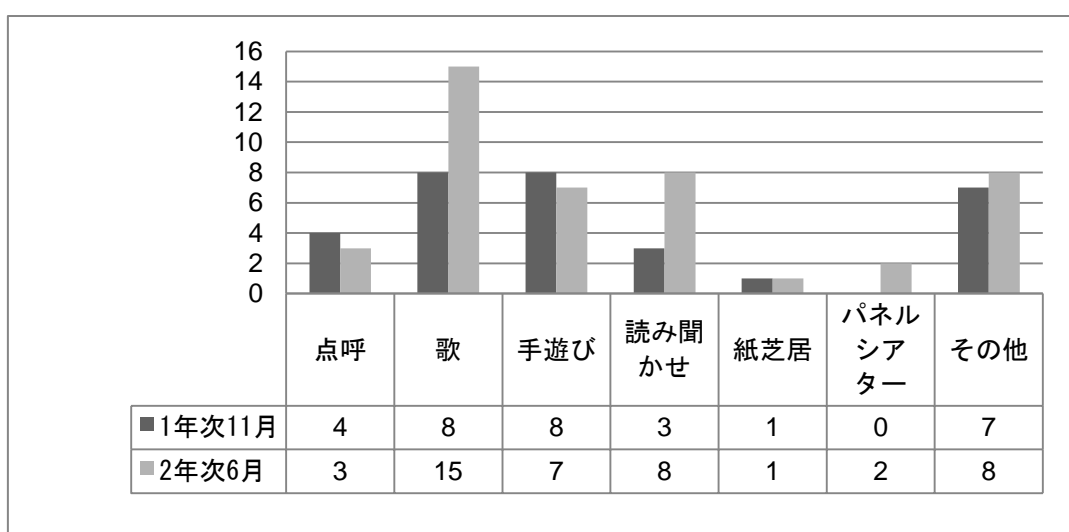


図7 帰りの活動回数

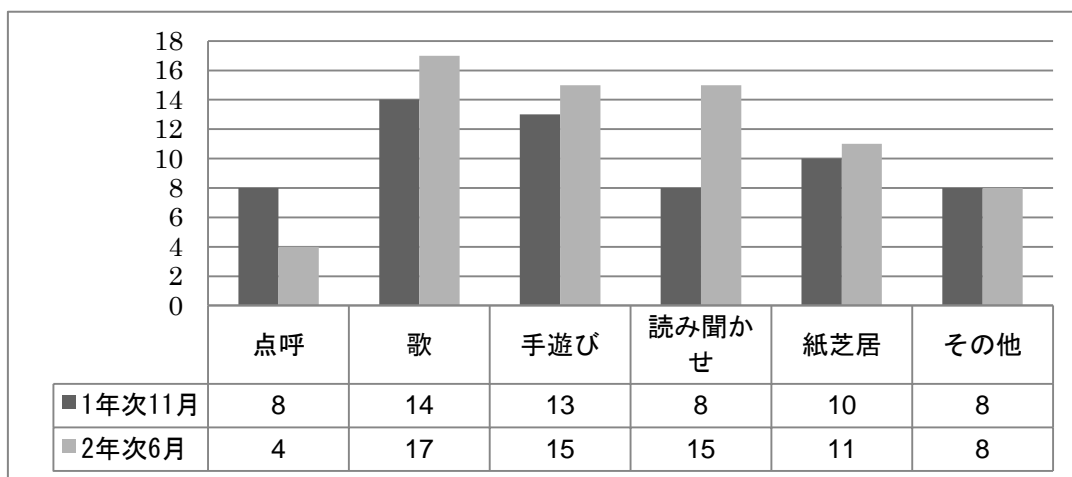


図8 帰りの活動内容

一番重要であると考えられる主活動の回数を図9で示す。1年次では2週目に主活動を持つことが多い。1年次実習では2名が主活動を行っていないが、他の部分活動は行っていた。また2年次は全日実習が入ってくるため、この2名は主活動のみの部分実習は行わなかったと思われる。図10では先生方からの指導回数を示したが、実習中は指導者の先生と毎日反省会が行われ、先生方から指導を受けているので、実際の指導回数は図10に示される数よりももう少し多いと思われる。

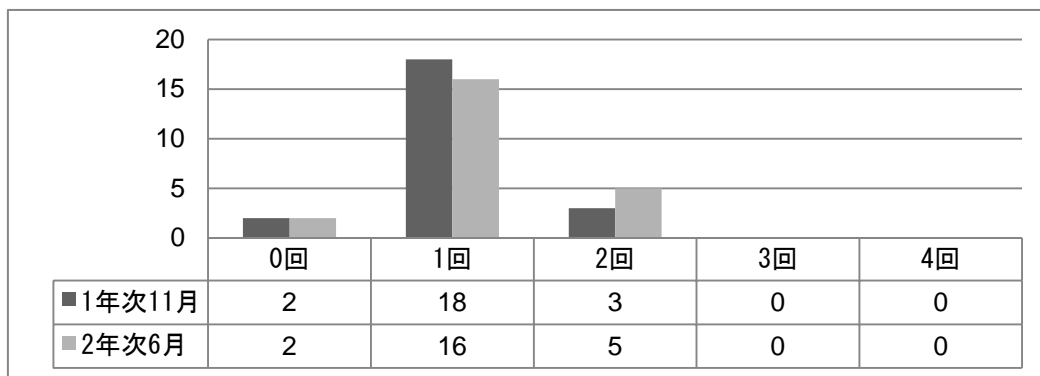


図9 主活動実習回数

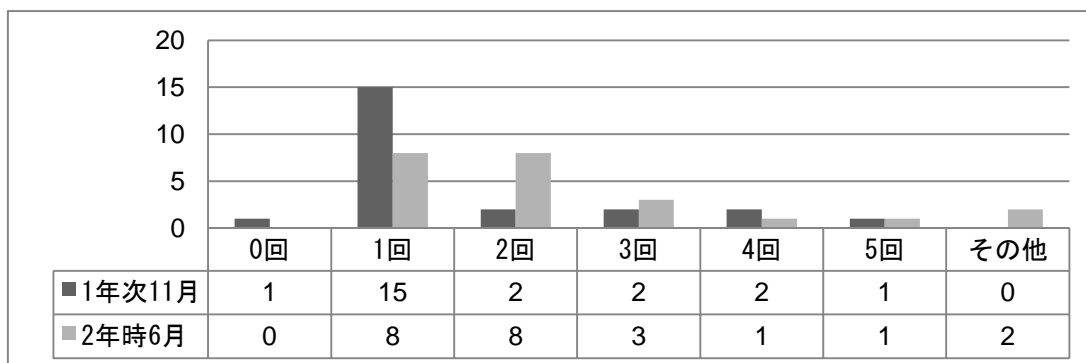


図10 主活動指導回数

図 11 には主活動の内容を示した。

2 年次になると「リズム遊び」が新しく活動として取り入れられている。主活動の内容などについては、後の補足で述べたい。

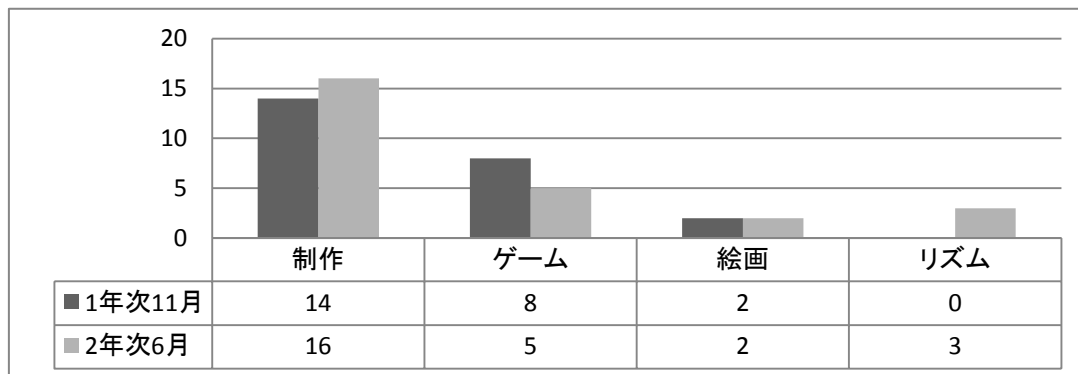


図 11 主活動内容

図 12 では主に担当したクラスの活動において、全日実習を行った回数を示す。

1 年次実習では、全日実習を行った学生はわずか 3 名でありしかも一日のみであった。しかし 2 年次実習になると 9 割の学生が全日実習を行っており、中には 2 日間、3 日間の全日実習を行った学生もいた。

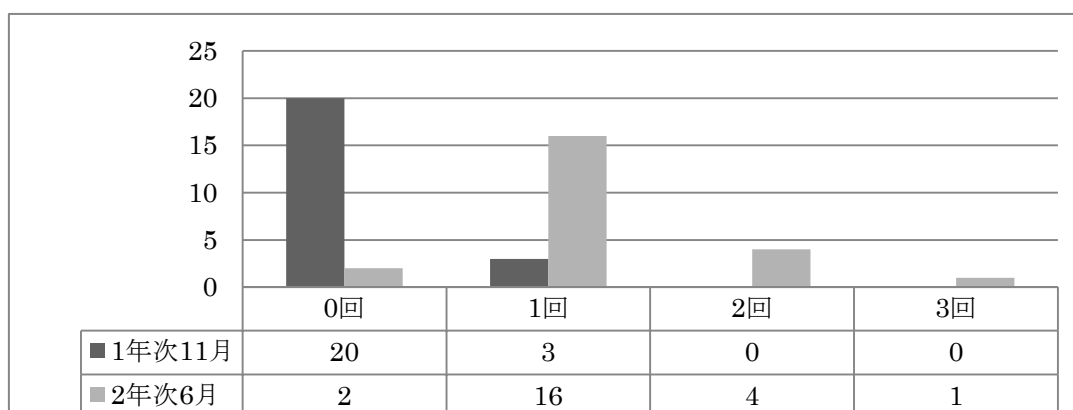


図 12 全日実習回数

図 13 では学生の実習先への出勤時刻を、図 14 は退勤時刻を示す。1 年次より 2 年次実習の方が全体的に出勤が遅くなっている。しかし、8 割の学生は 8 時前には出勤し園の掃除をしたり、子どもたちの受け入れの準備をしている。また、退勤時刻は 1 年次、2 年次共にバラバラであり、園の実情に合わせて個々の退勤時刻に変化があると思われる。

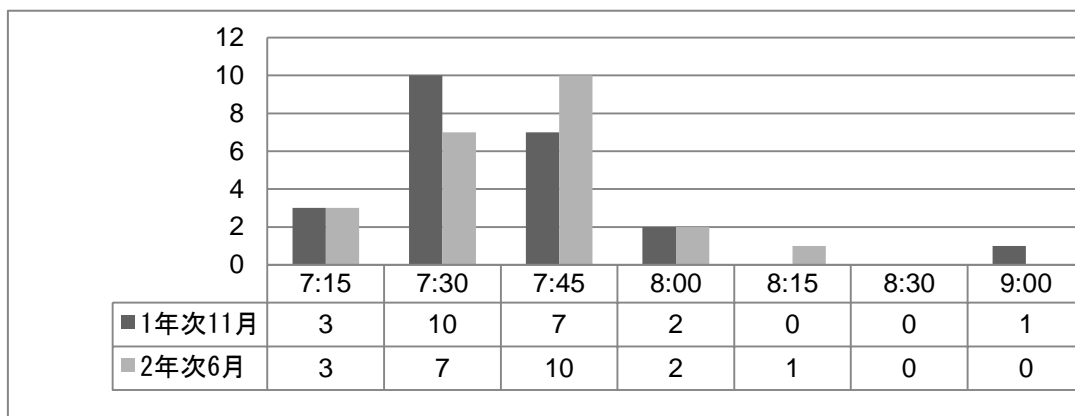


図 13 平均出勤時刻

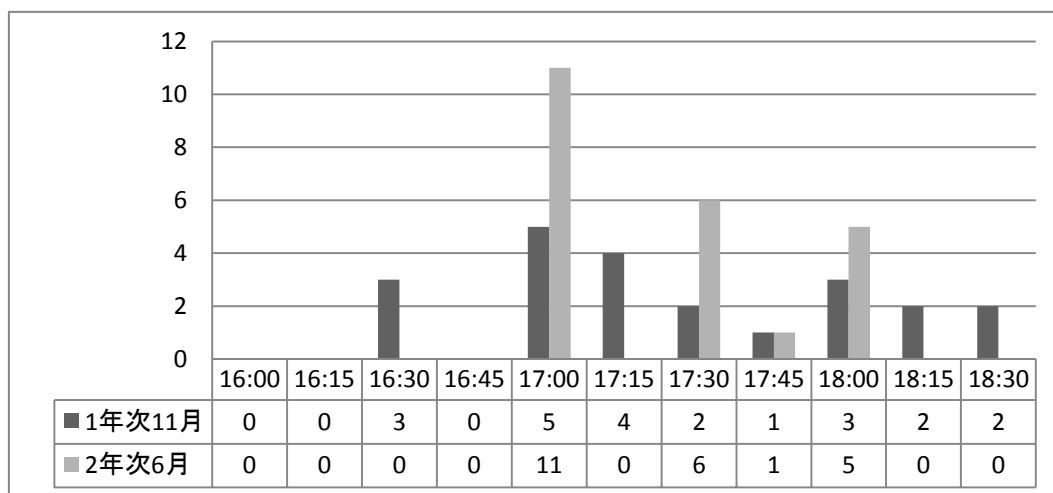


図 14 平均退勤時刻

学生が実習で一番つらいと感じるのが、睡眠時間の不足と予想していた。図 15 では教育実習中の平均睡眠時間を、図 16 には個別の平均睡眠時間を示した。

森（2013）の集計では 24 年度入学生は 11 月 1 年次、図 15 の平均睡眠時間は 1 週目 4.0 時間、2 週目 3.3 時間であった。また図 16 の個別平均睡眠時間では 1 時間以内が 1 週目 4 人、2 週目が 5 人もいるのに対し、平成 25 年度入学生の学生は 1 年次では 1 人もいなかった。2 年次の 2 週目で 3 人いたが、やはり指導案の枚数の多い学生であった。

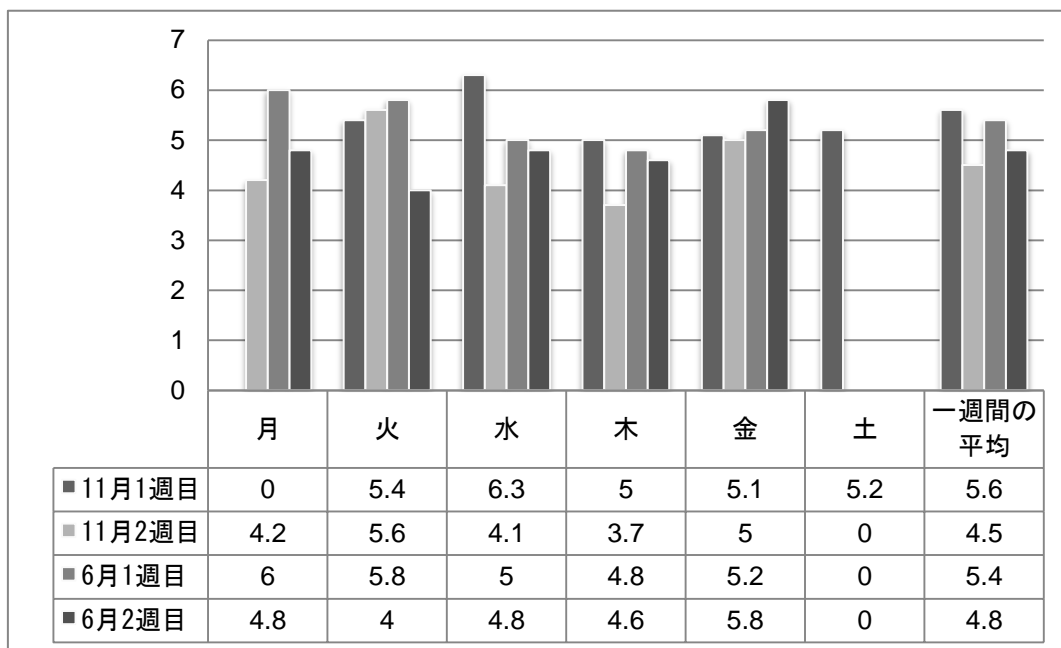


図 15 平均睡眠時間

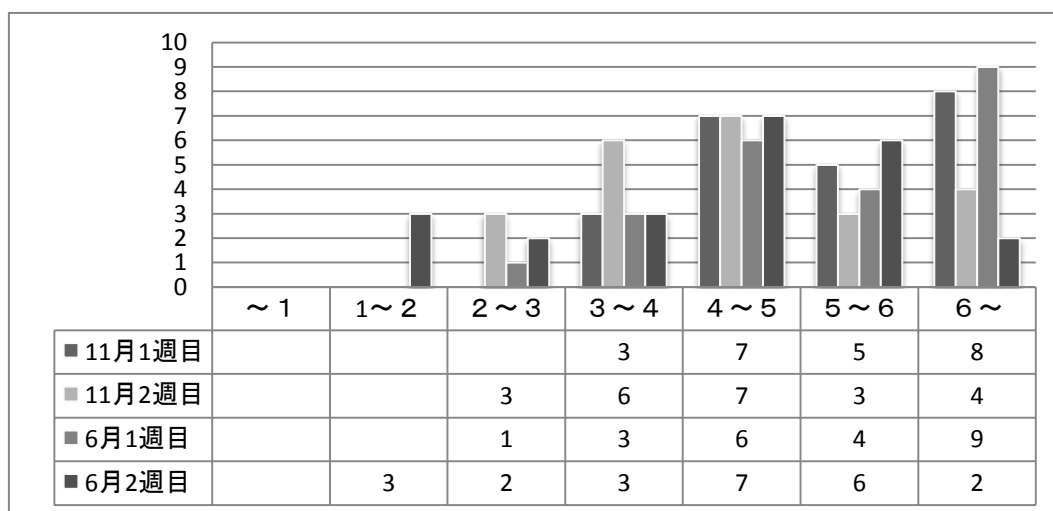


図 16 個別平均睡眠時間

5 結果の補足および考察

1年次は幼稚園の流れ、子どもの姿、発達の違い、教師の子どもたちへの関わりかたなどを観察する観察実習が主になっていることが確かめられた。従って、図 1 のとおり、同じクラスに 10 日間担当することは少なく、どの学年にも入り観察実習をしている学生の方が多い。2年次になると、反対に同じクラスを担当することが多くなり、7割に近い学生が同じクラスで実習をしていた。担当クラスが変わった学生でも、6日以上は同じクラスを担当

していた。

図4、図6、図8の朝、昼、帰りの活動内容をみると、先生方が普通の保育で行っていることを中心として活動をしたようである。学生が記載してきた調査用紙から、朝、昼、帰りの活動内容の“その他”をみると、1、2年ともに、「リズムあそび」「ミニゲーム（しりとり）（じゃんけんゲーム）（わらべ歌）他」「マジック」「体操」「素話」「食育指導」「歯磨き指導」「歌おろし」「パペットであそぶ」など自分で考えた活動も取り入れながら活動したようである。

しかし中には年少のクラスで、実習生が行ったお昼の活動がいつもの流れと違うことから子どもたちが戸惑ってしまい、活動が進まなくなることがあった。後の反省会で担任の先生から「年少さんは特に毎日の生活の流れも大切なことですよ」と指導を受け、園での生活をスムーズにしていくポイントがあることを感じ取ったようである。

図4、6、8の朝、昼、帰りの活動の他にも、自己紹介をしたり、絵本、紙芝居の読み聞かせ、素話などの活動もしている。2年生では読み聞かせ、絵本読みは毎日行ったという学生が何人かいた。1年次は自己紹介、読み聞かせの指導案を書き、指導を受けてから子どもたちの前に立っているが、2年生になると他の指導案を書くことが多くなるためか、指導案なしでこれらの活動をしているケースが多くみられた。

実習前に学生が「何をしよう」「どうしよう」と一番悩んでいると感じられるのは主活動の活動内容である。図9のとおり、1年次では活動がない園もあったが、ほぼ全員が主活動を行い、2年次では全日活動の中にも含まれ、また主活動のみの回数も多くなっていた。その内容は図11に示されるように大きく4つに分類されているが、その内容の詳細は下記のようなになる。

【1年次】

11月中の実習なので、秋をイメージする、どんぐり、落ち葉、みのむし、サツマイモなどを主題として、マラカスづくり、おりがみ制作、ロケット、ちぎり紙、などの制作をしていた。

ゲームではしっぽ取り、どんぐり競争、ボールを使ってゲーム、落ち葉飾り競争など、季節に絡めて、また子どもたちが楽しく遊べると思われるゲームを考えていた。1、2年共にゲームで新聞紙を使ったゲームをしている学生が何人かおり、身近にある材料をつかって子どもたちが楽しめる遊びを考えているようだ。

【2年次】

6月中の実習なのでこの季節を表す、アジサイ、カエル、てるてる坊主、魚などを主題として、制作、ゲーム、リズム遊び、絵画制作の活動へ結びつけていた。作った作品を用いて次のゲームなどに発展させ、作ったもので遊ぶ楽しさを味わうところまで考えていた学生もいた。

主活動は、実習に行く前にはいくつか案を用意し、指導案も下書きを書くよう指導をしている。しかし、2年生になると実習に行き担当する子どもたちと関わり、実際の子どもの

姿が見えてくると、自分が用意した主活動の内容を変更したり、遊び方を変えたりする姿がみられた。主活動のねらい、子どもの反応の予想、環境設定についてなど主活動の流れを想定してもう一度指導案を下書きから書き、担任の先生の指導を受け指導案を清書し、当日の活動となる。

全日実習は、指導案の作成、準備など大変だったと思われるが、図 10 のとおり、担当の先生から何度も指導を受けたことにより良い経験ができたと思われる。2名の学生は全日実習をせず、部分実習のみ行った。1名は園の指導方針に起因するが、もう1名は実習中の実習生の姿から全日実習は無理と判断されたことに起因する。学生にとっては実習2週目の後半で体力的にも厳しいときになってきているが、全日実習での学びはとても大きいものがあったと思われる。

学生が実習終了後登校した際、「寝むれなかった」「つらかった」というマイナスな言葉があまり聞かれなかった事を感じたが、実際、学生の睡眠時間をまとめてみると予想以上にとれていることがわかり驚いた。例年の学生から聞かれる言葉には、「眠れない日何日かあった」「毎日数時間しか眠れなかった」「とても大変だった」と睡眠不足を訴えるものが多かった。今回調査をした学生も睡眠不足を訴えていたが、しかし実際の結果は図 15、図 16 のとおり7割の学生は平均5時間以上睡眠がとれていた。

予想に反してこのように睡眠時間がとれていたことに関しては以下のように考えられる。

一番時間がかかるとされる日誌の記入時間が短かった。このことの原因の一つは、幼稚園の先生による指導の効果が考えられる。たとえば、「反省会の中で日誌の書き方について指導を受け、日誌を書いて提出し先生からの指導の繰り返しの中で記入の仕方のポイントをつかみ、また子どもたちの姿をしっかりと見取ることで日誌の記入がスムーズになった。」というような報告が多数聞かれた。

日誌の記入時間が短時間で済んだもう一つの理由としては、本校で書く力の指導を重点的に起こった成果と考えられる。入学前、入学後の書く力、文章能力に欠けている学生の姿を感じた時に、何かをしていかなければという思いから、学校生活の中で「書く」ということに重きを置き指導をしてきた。その指導が生かされたと考えられる。書くことは日誌だけにとどまらず、指導案の記入にも効果的だったと考えられる。

なお数字的には1年次と2年次の実習では睡眠時間に差がないように見えるが、実際は2年次の実習は指導案を書く枚数が1年次よりはるかに多くなり、その分睡眠時間は削られているはずであるが、そうならなかったのは書くことの効率が上がったからであろう。「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の期間中に書かれた清書指導案の平均枚数を下記図 17 に表す。

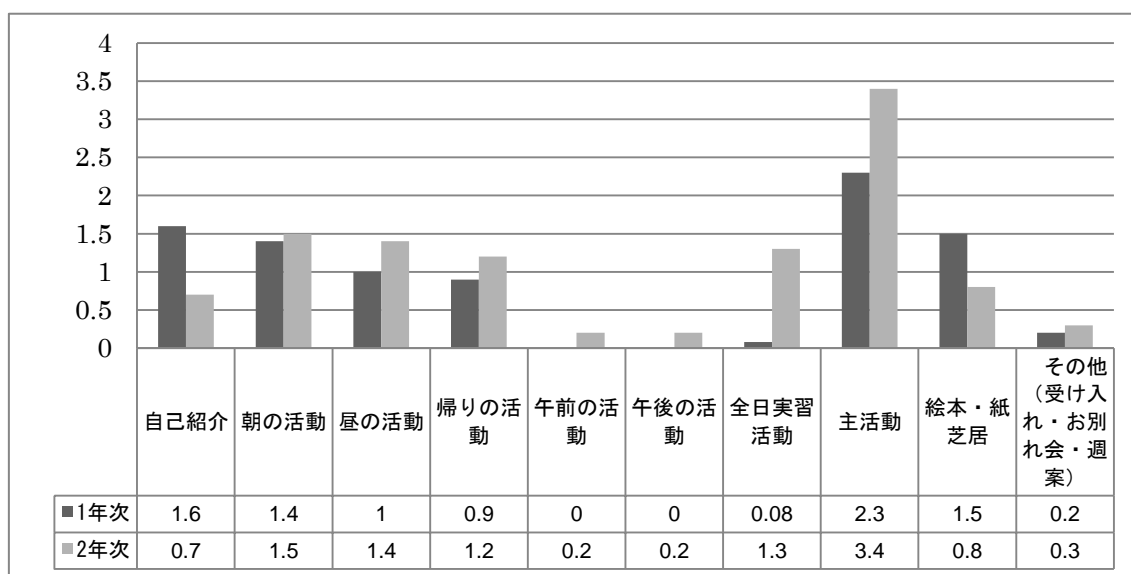


図 17 一人当たり指導案を書いた平均枚数（清書のみ）

指導案は、園によっては「下書き」から書きはじめ、先生方から指導を受けたうえで「下書き」そして実際の「指導案」の清書となる。図 17 の数は清書の枚数であり、また指導案は 1 枚で書き上げる事は少ないので、実際はもっとたくさんの枚数を書いている。平均の枚数を見ても 2 年次の方が多く、それでも睡眠時間が多くとれたことは日頃の学生指導、実習指導の成果が表れた結果とも思われる。

6 おわりに

平成 25 年度入学生の「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の実習内容の詳細を分析することにより、各園の実習における実情が見えてきた。また学生の実習前の事前準備、教材研究、実習中の時間の使い方、文章能力、書く力など、一人一人の学生の実習に対する姿勢や、学校生活への取り組みなど、学生の内面も感じ取ることができた。

日誌に関しては、2 年生の実習ではスムーズに記入ができていたことから、本校の『書くこと』に関する指導の効果の反映がみられるといえよう。本校では、実習指導の時間だけでなく、学校生活の中で、漢字練習、自分の考えをまとめてレポートに書くことなどを 1 年次から積極的に取り入れてきている。書くことの苦手な学生には多少なりとも良い結果として現れたのではないかと思う。現代は電子媒体での処理が多いが、肉筆で書くということはこの職業を目指す学生にとってはとても大切なことなので、今後も『書くこと』に力を注いでいきたいと考える。

教育実習の実習内容が分析できたことで、今後の実習指導にその分析内容を生かしていきたい。個々の学生が事前準備をしっかり行い、失敗を恐れず自信を持って実習に取り組めるように指導をしていきたいと思う。また、実習報告会の中で多数の学生が、「実習に行くまでに、教材研究、ピアノ、読み聞かせの練習など事前準備を学生生活の中でもっと取り組ん

でおけば良かった」と述べていた。指導者側としては学生には日々伝えているつもりでいたが、実際に現場で実習をすることにより自分の欠けている所を感じられたと思われる。

日頃から学生は沢山のことに時間を費やす必要がある。やらなくてはいけないとわかっていてもなかなか取り組めない、あるいは取り組もうとさえしない傾向もある。事前準備をするということは実習においてだけでなく、今後現場への就職を見据えると、とても重要な事であると考えられる。実習前だけに留まらず、1年生、2年生どちらにおいても、日々の生活の中でなお一層指導を心掛けたいと思う。

教育実習の指導の中で、幼稚園側からは技能的な事の指導に加え、挨拶、コミュニケーション力、体調管理などの指導への要請が多くなってきており、学校側の指導も細部まで必要になってきたように感じられる。幼児教育者を目指すものとして、学生は日々の生活の中で取り組むこと、学ぶべきことは多い。技能的な事だけではなく、人として、また先生となる人として基本的な生活習慣、挨拶、清掃、気働きなど当たり前のことが当たり前に行える学生の育成に力を注いでいきたいと思う。

(資料1) 次回の教育実習に活かすために

園名 (幼稚園) 学年 番号 氏名

1 担当学年 (主学年に○) 【 年少 (日) 年中 (日) 年長 (日) その他 】
2 実際にした活動
○全日実習 回
○実習内容 部分実習も含む (活動回数、内容に○、具体名を記入)
・朝の活動 回 (点呼 歌 手遊び 読み聞かせ 紙芝居 その他)
・昼の活動 回 (点呼 歌 手遊び 読み聞かせ 紙芝居 その他)
・帰りの活動 回 (点呼 歌 手遊び 読み聞かせ 紙芝居 その他)
・主活動 回 (内容)
3 指導していただいたこと
(1) 頂いた資料 () で囲む
実習中の予定 楽譜 週案 日案見本 時案見本 その他 ()
(2) 主活動で事前にご指導いただいた回数 (時間) およびその概要
回数 (時間)
主に指導されたこと
4 登・降園時刻
○登園時刻
・一番早かったとき : 平均 :
○降園時刻
・一番遅かったとき : 平均 :
5 睡眠時間 (主活 or 全日実習をした曜日に)
○1週目の平均睡眠時間 時間 分
月 : 火 : 水 :
木 : 金 : 土 : 日 :
○2週目の平均睡眠時間 時間 分
月 : 火 : 水 :
木 : 金 :
6 実習園への要望

(資料2) 実習報告書 (幼稚園)

文化学園長野専門学校

年 番 氏名

期 間	月 日～ 月 日 (日間)		園名		
園長名		主任氏 名		指導者 名	
園へ提出したもの  で囲む		週案	日案	実習日誌	記録等
見学概要 (施設オリエンテーション)					
主たる観察事項					
担当実習の状況					
その反省・感想					
実習を終わって					